

一関・平泉地方

◆地域の情報やお寄せください

卒業記念へ文鎮铸造

大東・大原小 児童が作業見学

一関市大東町の大原小学校(菊池正人校長、児童100人)の6年生21人は10日、総合的な学習の一環として奥州市水沢の市鑄物技術交流センターを訪れ、自分たちが採取した砂鉄が文鎮として加工される様子を見学した。完成品は3月19日に行われる卒業式の際に児童に贈られる予定。

同校では地元のボランティア団体・ホッパの会の協力を得ながら、6年生が地元で伝わるたたら製鉄について学習している。今年度も8月に砂鉄川で砂鉄採取を行い、9月にたたら製鉄を体験。10月には「第29回全国川サミット・一関」大原地区の歴史と鉄文化をテーマに事例発表も行った。



専用の型に溶かした鉄を流し込む様子を見学する大原小の児童

同日は児童がたたら製鉄で精製した「けら」を及源鑄造(及川久仁子代表取締役社長)の職人が約1400度の炉で溶かし、「大原」の文字と校章がデザインされた型に流し込んだ。児童は作業風景を興味深そうに眺めていた。

菅原秀徒君(12)は「砂鉄を川で採るのは大変だったけれど、自分たちの砂鉄が文鎮になってすごくうれしい」と興奮した様子だった。

菊池校長は「製品になった喜びを感じるとともに、昔から伝えられてきたたたら製鉄の文化に思いをほせてほしい」と語っていた。